

オーディオ実験室収載

スピーカーアキュライザーの導入(8)

—STAGE+(1)—

1. 始めに

前報(7)に引き続き、スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴を実施します。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴計画

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとします。

今回は、ドイツグラモフォンの配信サイト STAGE+からアーカイブ動画の配信を試聴します。試聴のポイントは、ライブ収録のリアル感の再現です。

対象の STAGE+の配信音源は次のとおりで、PC から Sonica DAC 経由で再生します。

ベートーヴェン ピアノソナタ 30 番 31 番 32 番 **

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

バッハ The Art of Life (作品集) *

Daniil Trifonov (ピアノ)

バッハ クリスマスオラトリオ ***

エリオット・ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイスト

モンテヴェルディ合唱団

ブルックナー 交響曲 7 番 **

アンドリス・ネルソンス指揮ライブチッヒゲヴァントハウス

シューベルト ピアノ五重奏曲「鱒」 **

リサ・パティアシュベリ (ヴァイオリン) 他

ヘンデル 組曲集

Seong-Jin Cho (ピアノ)

シューマン ピアノ協奏曲

エレヌ・グリモー (ピアノ)

カメラータ・ザルツブルグ

* : 演奏は違うが CD を所有

** : 演奏が違うがアナログ盤を所有

*** : 演奏が違うが DVD を所有

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

上記を STAGE+のサイトから、順次指定して再生していきます。

ベートーヴェンの後期のピアノソナタは、ポリニーの弾く Fabbrini が、ミュンヘンのヘラクレスザールに生々しく響きます。SPA-7 導入前から高齢のポリニーが弾いているとは思えないほどの勢いのある演奏でしたが、SPA-7 導入によりますますその迫力が増しており、ライブ収録のため、ある意味アナログ盤などを超えた生々しさがあります。

バッハの *The Art of Life* (作品集) は、鬼才 Trifonov が、バッハ一族の作品をベルリンフィルで演奏しています。シャコンヌはブラームスのピアノ編曲版でずっしりとくる演奏ですし、フーガの技法は静かに淡々と味わい深く弾いており、SPA-7 導入により個々の音の精度が上がり、表現力が精緻になっています。

バッハのクリスマスオラトリオは、London の *St Martin in the Field* での、ガーディナーの手兵イングリッシュバロックソロイストとモンテヴェルディ合唱団の演奏です。ティンパニの連打、トランペットの切り裂くような音、ノンヴィブラートの弦楽など冒頭から圧倒されます。合唱の力強い協和と分離、ソリストの声の明瞭さ、ホールに響く豊かな残響音もリアルです。昨年 12 月の収録であり、音質は 1999 年収録の同じ構成の DVD をはるかに超えています。

ブルックナーの交響曲 7 番は、ネルソンス指揮ゲヴァントハウスの本拠地での演奏です。大編成の大曲で音量のダイナミックレンジも要求される曲です。ハイティンク指揮ベルリンフィルのダイレクトカットアナログ盤がありますが、滑らかさでは一步譲るものの、クリアーさを維持したダイナミックレンジではアナログ盤を超えている印象です。

シューベルトのピアノ五重奏曲「鱒」は、パティアシュベリのストラディヴァリウスエンゲルマンの伸びのある高音や 5 人のメンバーの息のあった切れ味のよい演奏が楽しめます。SPA-7 導入により、冒頭の拍手、足音、椅子を引き寄せる音、息合わせなどの環境音も生々しくなっており、小ホールに響くピアノやコントラバスのピチカートも明瞭になっています。

ヘンデルの組曲集は、8 番と 5 番では、ショパンコンクールの Winner である Seong-Jin Cho の透明感あるしっとりとした演奏が聴き取れます。ヘンデルに主題を採ったブラームスの変奏曲では、一転して力強い打鍵の表現もあって、演奏技法も変わっていることが分ります。

シューマンのピアノ協奏曲は、才気あふれるグリモーとカメラータ・ザルツブルグのハンブルグのエルプフィルハーモニーのホールでの共演です。グリモーのピアノが切れ味よく、広いホールに響いています。こういった広いホールでのソロとアンサンブルの演奏はバランスがとりにくいのですが、バランスよく生演奏のように聴こえます。

4. まとめ

ドイツグラモフォンレーベル所属の演奏家の最新の収録動画ですが、配信という概念を超えた音質になっており、SPA-7 導入前から随分と変わっており、ある意味アナログ再生のレベルに近づき、またそれを超えたところも感じられます。

以上